

我が国における世界文化遺産の今後の在り方 第一次答申 概要

「在り方」検討の背景

- ・世界遺産の保存・活用に係る課題の顕在化（関係者の連携不足、開発等による影響、災害等、来訪者対応、新型コロナ、地域社会の衰退など）
- ・持続可能な開発目標（SDGs）といった社会情勢

1. 世界遺産一覧表記載の意義

①遺産の将来世代への継承【保存】

- ・文化遺産保護のための多様な関係者が参画する包括的体制が構築される
- ・周囲の環境の保全が世界遺産を中心とした豊かな地域の形成につながる
- ・国際的な議論を踏まえた保護の取組が我が国の文化遺産保護の参照事例となる

②世界的な観点からの価値の発見・深化・発信【価値】

- ・推薦に向けた取組の中で新たな価値が発見される
- ・記載後の調査継続により価値が深化する
- ・価値や保護の取組を世界に発信することにより文化の多様性増進に寄与する

③世界文化遺産を保護し、活かしたまちづくりによる持続可能な社会の実現【活用】

- ・地域的のみならず世界的に普遍的価値を有する世界文化遺産の保護に向けて、地域コミュニティが一体となり取組むことで地域アイデンティティが醸成される
- ・来訪者戦略により持続的で望ましい来訪の在り方を実現できる
- ・新たな雇用の創出や交流・定住人口の獲得等により地域社会の課題解決に資する

2. 持続的な保存・活用の在り方

- 世界遺産一覧表記載後も、地方自治体を中心となって地域コミュニティとともに持続的な保存・活用を進める必要であるとの観点から、具体的な方策を提示する

【地方自治体】

- ・部局・自治体の垣根を越えた体制及び予算の構築・維持・発展
- ・周囲の環境の積極的な意味づけと保全・形成の在り方の追求
- ・地域コミュニティの参画促進と適切な来訪者管理等を通じた魅力的なまちづくり

【国】

- ・サイトマネージャーの育成等、地域コミュニティや地方自治体の取組支援
- ・事例や最新情報を共有する機会の設定
- ・各遺産の情報についてSNS等を通じた発信
- ・他省庁との連携

3. 世界遺産一覧表における文化遺産の充実

- 第一次答申を踏まえ、暫定一覧表の見直しについて以下のような観点から検討する

- ・国際的にも価値が高い資産
- ・持続可能な保存・活用が見込まれる資産
- ・地域とのかかわりが深い資産で、現代という新たな時代も視野に入れつつ、自然との共生や災害に対する対応、無形の文化遺産との結びつきなどの観点から高く評価できる文化遺産なども、新たな候補となりうる

- 暫定一覧表改定にあたり、学術的価値に基づき検討する必要性や自治体を越えた資産の存在に鑑み、公募は行わない

- 国際的な価値の高さや地方自治体における持続的な体制の有無等を総合的に勘案し、文化審議会が暫定一覧表に追加する案件を検討

- 暫定一覧表に記載された資産は、国の支援の下、自治体が主体的に推薦書を準備

- 自治体に意思確認の上、一定期間活動していない暫定一覧表記載資産の削除も検討。